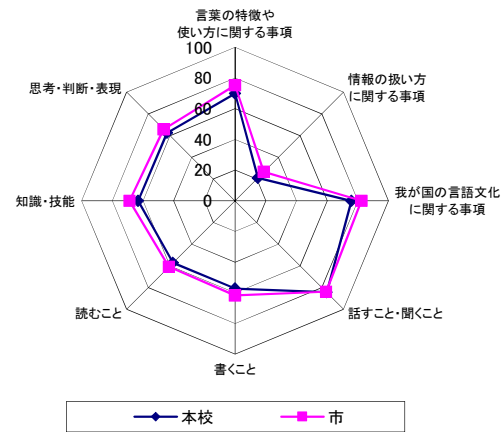


宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使いに関する事項	69.8	75.3	77.1
	情報の扱いに関する事項	21.0	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	75.8	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	84.4	83.9	84.2
	書くこと	57.3	61.7	64.5
	読むこと	57.3	60.9	61.0
観点別	知識・技能	63.2	68.8	70.3
	思考・判断・表現	62.7	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

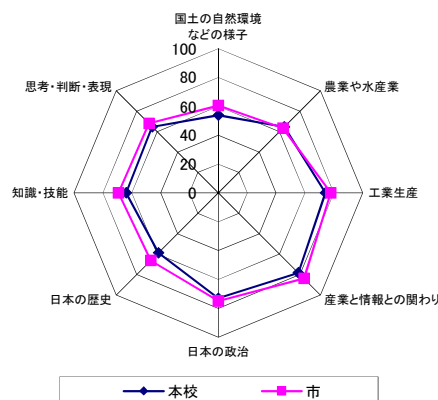
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使いに関する事項	言葉の特徴や使いに関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ○「漢字を書く」の「原因・停車」の問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。家庭学習等で復習に取り組む習慣が身に付いてきた成果である。 ●「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている」の問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。漢字を熟語として覚え、似ている漢字と区別して引用することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も、漢字を正確に書けるように、副教材を活用して、宿題や朝の学習の時間に漢字練習への取組を徹底する。 ・各教科の学習の中でも、既習の漢字を用いて作文ができるように指導していく。
情報の扱い方 に関する事項	情報の扱い方に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ●情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理したり、目的に応じて文章を簡単に書いたりする問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。資料の要点を読み取ったり、自分の考えを文章化したりすることに課題が見られる。	・文中から必要な情報を見つけるために、文章中の言葉と図表などの言葉を線で結ぶなど、関係を視覚的に捉えて読むことができるようにする。
我が国の言語文化 に関する事項	我が国の言語文化に関する事項の領域では、平均正答率は市の平均と比べて低い。 ●和語、漢語、外来語についての問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。仮名文字の成り立ちや語句の由来を理解することに課題が見られる。	・語句の由来について関心がもてるように、他教科を含めた普段の学習の中で、和語、漢語、外来語について取り上げる。
話すこと・聞くこと	話すこと・聞くことの領域では、平均正答率は市の平均と比べてやや高い。 ○話の内容を捉える問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。話の内容を捉える学習を積み重ねた成果である。 ●話の内容を捉えて文章に表す問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。読み取ったり、自分で考えたりしたことを文章化することに課題が見られる。	・今後も話の内容を捉える力が育つように、文章を読む際には、人物の行動や心情を読み取るような発問を工夫していく。 ・与えられた情報を整理して文章化したり、要約したりする場面を授業中に設けるようにする。
書くこと	書くことの領域では、平均正答率は市の平均と比べて低い。 ○「予想される反論とそれに対する意見を書いている」の問題では、平均正答率は市の平均と比べてほぼ同じであった。同様の内容を学習した際に、文章の書き方について十分に理解することができた成果である。 ●「指定された長さで文章を書いている」の問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。自分の考えを理由や根拠を用いて詳細に書くことに課題が見られる。	・今後も、考えをもったり、反対意見を予想したりしながら自分の意見を書くことができるように、文章の書き方を示し、可視化するなど工夫して指導をしていく。 ・他教科の学習の際も、自分の考えや、資料から読み取ったことを文章に書く学習を取り入れ、書くことに慣れさせる。
読むこと	読むことの領域では、平均正答率は市の平均と比べて低い。 ○「登場人物の心情について、描写を基に捉えている」の問題では、平均正答率は市の平均と比べてやや高かった。指導を通して、物語の構成や人物の心情を捉える視点が養われていた成果である。 ●説明文の構成や内容を捉える問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。資料の要点や段落どうしの繋がりを捉えることに課題が見られる。	・今後も、朝の読書の時間と図書室利用を徹底して、読書の機会を多く確保し、人物の心情を読み取ったり、場面を想像したりする力が育つように指導していく。 ・説明文の学習の際には、文章の構成や論の進め方について確認する機会を意図的に設けることで、文章を整理したり、内容を読み取ったりすることができるようにする。 ・要点をおさえ、段落どうしのつながりを考える活動を意図的に入れるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	53.9	60.5	65.8
	農業や水産業	64.5	63.3	66.0
	工業生産	74.2	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	78.2	83.8	76.6
	日本の政治	73.0	74.9	74.1
観点別	日本の歴史	58.7	66.3	68.3
	知識・技能	63.9	69.3	71.4
	思考・判断・表現	64.7	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

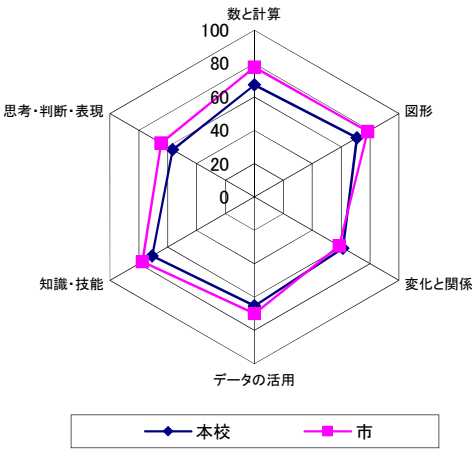
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	国土の自然環境などの様子の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ●海洋に囲まれ多数の島からなる国土の構成について、地図をもとに考え、表現しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。島国の特徴について理解することに課題が見られる。	・国土の学習をする際は、地図帳を用いて島国の特徴を考えたり、経済水域の仕組みと関連付けて覚えたりするなど工夫して指導をしていく。また、他教科でも他国との比較をする際に、日本の特徴に触れる機会を設ける。
農業や水産業	農業や水産業の領域では、平均正答率が市の平均と比べてやや高い。 ○日本の主な食料の自給率について理解しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。教科の学習で、食品ごとの自給率について調べたり、輸入品との関係を考えたりする機会を設けた成果である。 ●米の品質を高める工夫について理解しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。品種改良の背景や目的を理解することに課題が見られる。	・今後も、食品ごとの自給率や、輸入品との関係について、自分で気が付いたことや理解したことをまとめる学習の場を設ける。 ・他教科でも、特産品などの学習をする際には、品種改良の目的や有効性について触れるようにする。また、給食等で食べる食品の産地やブランドに関心がもてるように指導していく。
工業生産	工業生産の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ○日本の主な輸出品・輸入品について理解しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。日本の産出資源の状況と輸出品・輸入品の関係について、資料等を用いて理解を深めた成果である。 ●自動車の部品を再利用する目的について理解しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。再利用をする物とその目的を関係づけて覚えることに課題が見られる。	・今後も、教科書や資料集のデータを用いたり、輸出品目・輸入品目の関係について考えたりして学びを深める機会を設ける。 ・資料を用いて資源の産出量の現状を捉え、再利用の必要性を想像することができるように指導していく。
産業と情報との関わり	産業と情報との関わり領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ○情報の発信と受信の注意点について考えているの問題では、平均正答率が市の平均と比べてやや高い。一人一台端末の使い方について、情報モラルの視点から日常的に指導を行ってきた成果である。 ●産業における情報活用の現状について考えているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。集められた情報の目的に応じた使い方について考えることに課題が見られる。	・今後もインターネットを利用するときの注意点について、日常的に指導していく。 ・店が利用者のニーズに答えるために、集めた情報をどのように活用しているかを考えたり、ニーズと情報活用の関係を図に整理したりするように指導をしていく。
日本の政治	日本の政治の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ○租税の役割について、資料を読み取っているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。他教科でもグラフや表の読み取りに注力した成果である。 ●議会政治について、資料をもとに考え、表現しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。二院制を用いた政治の仕組みを理解することに課題が見られる。	・今後も、グラフや表の読み取りを丁寧に指導していく。また、出前講座などで税金の種類や使われ方を学ぶ機会を設けるようにする。 ・議会政治の仕組みについて、議決までの流れを図に表したり、議会の様子を動画で確認したりすることで、イメージをもてるようにする。
日本の歴史	日本の歴史の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ○元との戦いについての理解をもとに、防塁が築かれた場所を判断しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。教科書の図や地図帳を活用して、元との位置関係を確認した成果である。 ●雪舟について理解しているの問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。作品と作者を関係づけて覚えることに課題が見られる。	・今後も、教科書と地図帳を併用して、国や場所の関係を確認する機会を設けるようにする。 ・かるたのようなゲーム性のある活動を取り入れて、作品と作者をつなげて覚えられるように指導していく。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	67.2	77.7	78.6
	図形	71.0	78.4	74.4
	変化と関係	61.3	58.7	53.0
	データの活用	65.3	69.9	57.2
観点別	知識・技能	70.8	77.5	74.0
	思考・判断・表現	56.7	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

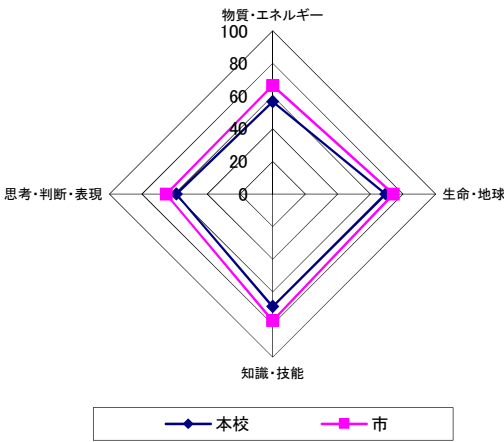
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	数と計算に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ●分数の計算の問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。真分数のかけ算・わり算や約分等の基本的な計算に課題が見られる。	・小数や分数の計算を定着させるため、朝の学習の時間や宿題等でAIDリルや計算ドリルを活用し、繰り返し問題に取り組む機会を設ける。
図形	図形に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ●六角形の内角の和の求め方を表す式を選択する問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。多角形の内角の和の性質について発展的に考えていくことに課題が見られる。	・既習事項である三角形や四角形の角のきまりを振り返りながら、他の多角形についても既習のきまりを用いて発展的に調べたり、式を考えその意味を話し合わせたりする等の機会を設ける。
変化と関係	変化と関係に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて高い。 ○百分率について理解し、割引後の値段を求める式を選択する問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。日常生活の買い物場面と関連付けながら理解することができている。 ●速さの単位の間接関係を理解し、分速を秒速や時速に直す問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。異なる時間の単位をそろえて速さを比較することに課題が見られる。	・今後も算数だけではなく、他教科や授業以外の学校生活においても、割合を求める機会を設けるなど、日常生活の中で問題に取り組む機会を設ける。 ・時速、分速、秒速の単位の間接関係について、身近な問題を取り上げるなどして理解を深め、速さの単位変換の問題等に繰り返し取り組む機会を設ける。
データの活用	データの活用に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ○平均から全体の量を推測する問題では、平均正答率は市の平均と比べて高い。平均の意味や求め方については、よく理解することができている。 ●度数分布表を完成させる問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。表の特徴や用い方への理解に課題が見られる。	・今後も具体的な場面をもとに平均の求め方を考えたり、繰り返し練習問題を行ったりして、知識の定着を図る。 ・度数分布表の特徴や意味について、再度指導し理解を十分に深めた上で、データを表に表したり読み取ったりする活動を繰り返し行う。

宇都宮市立西が岡小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	56.6	66.5	66.3
	生命・地球	69.2	74.0	72.6
観点別	知識・技能	69.0	77.6	78.2
	思考・判断・表現	59.0	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	物質・エネルギーに関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ●コイルについての問題では、平均正答率は市の平均と比べて低い。重要語句を理解することに課題が見られる。	・重要語句については、授業中に教師が意識的に使うようにし、知識として定着させられるようにする。 ・仮説、実験、結果、考察の流れで繰り返し授業を進めることで科学的概念の定着を図る。
生命・地球	生命・地球に関する事項の領域では、平均正答率が市の平均と比べて低い。 ○台風の風による被害を指摘する問題では、平均正答率が市の平均と比べて高い。経験したことや目にしたことのある事象については、よく理解することができる。 ●だ液によって、でんぷんがどのように変化するかを推測する問題では、平均正答率が市の平均と比べて低い。だ液がどのようなはたらきをしているのかを理解することに、課題が見られる。	・今後も、日常生活と関連させながら、身近な自然への興味・関心を高めていくとともに、映像資料などを活用して視覚的に理解できるような授業の工夫を継続して行う。 ・理科の観察・実験を行う際には、前学年までの学習内容を確認する。その上で、比較したり、関係付けたりといった科学的な問題解決の仕方を身に付けられるようにする。

宇都宮市立西が岡小学校
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める指導の工夫	○興味を高める導入や課題提示の工夫 ○教科横断的な視点で、各教科等の関連付けを工夫 ○体験的学習や課題解決的な学習の積極的導入 ○自力で課題解決にあたる時間の確保 ○ペア学習、グループ活動など最適な学び合いの場を設定し、対話による課題解決の場の工夫 ○目標や内容、個人の理解度に応じた多様な学習形態の工夫 ○ICT機器や一人一台端末、図書等の効果的な活用	・「勉強が好き。」と肯定的に回答した児童の割合は51.5%～90.9%で、市の平均を下回る学年が多かった。 ・「学習に対して自分から進んで取り組んでいる。」と肯定的に回答した児童の割合は68.1%～85.9%で、市の平均を下回る学年が多かった。 ・「学習の始まりには席についている。」、「先生や友達の話をも、最後まできちんと聞いている。」については、市の平均を上回る学年が多かった。 ・「インターネットやパソコンを利用して、学習に関する情報を得ている。」と肯定的に回答した児童の割合は50.0%～95.9%で、市の平均を大きく上回る学年もあった。一方で、「パソコンのキーボードを使って、文章を入力することができる。」については76.0%～97.1%で、どの学年も市の平均を下回った。
分かる授業を目指した授業力の向上	○主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「宇都宮モデル」と「西が岡スタイル(つかむ、考える・つなぐ、まとめる、ふりかえる)」を取り入れた授業の実施 ○児童への言葉掛け、学習方法、教材、AI型学習ドリルなど、個に応じた支援の工夫 ○課題提示、教材提示、発問の工夫(特別支援教育の視点を入れる。) ○児童の発言・考えをつなぐ教師のコーディネート力の向上 ○授業の終末で学習内容を振り返り、学んだことを共有する場の設定	・3～6年生対象の「授業はどの程度分かりますか。」の質問に対して、「よく分かる。」、「だいたい分かる。」と肯定的に回答した児童の割合は、全ての学年で市の平均を上回っていた。 ・「学習していておもしろい、楽しいと思うことがある。」、「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」と肯定的に回答する児童の割合は、4・5・6年生で市の平均を上回っている。 ・6年生の学習内容定着度調査では、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で、社会の「農業や水産業」の領域で、算数の「変化と関係」の領域で、市の平均を上回った。理科では全ての領域で市の平均を下回った。
基礎学力の定着と家庭学習の習慣化	○各教科の基礎的な学習内容や話の聞き方、発言の仕方などの繰り返し指導 ○朝の学習の時間の効果的・計画的な活用 ○単元や学期ごとに復習する機会の設定 ○個人差に応じた適切な分量・内容の宿題、自主学習の仕方の支援による家庭学習の習慣化 ○「学習チャレンジ週間」の実施による、家庭と連携した学習習慣の定着と意欲の向上 ○夏期学習会(学習ボランティア) ○学年・学級懇談会での保護者への家庭学習についての継続的な意識啓発活動	・「宿題をきちんとやっている。」と肯定的に回答した児童の割合は、1年生が100%で市の平均を上回っていた。2～6年生は76.0%～94.5%で、市の平均を下回っていた。 ・3～6年生対象の家庭での学習の仕方に関する質問では、「授業で習ったことをその日のうちに復習している。」、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる。」、「テストで間違えた問題をもう一度やり直している。」、「家の人は、あなたの学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをしてくれる。」と肯定的に回答した児童の割合は、4、5年生において、いずれも市の平均を上回っていた。 ・家庭での学習時間に関する質問では、平日については、市の平均と比べて全体的に学習時間が少ない傾向にある。休日については、「ほとんど学習をしていない。」と回答する児童の割合は14.3%～32.4%で、市の平均より高い。本校では休日にほとんど学習しない児童が多い傾向にある。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方針

・学習意欲を高める指導の工夫により、児童は学習の面白さや楽しさを感じ、進んで学習することができるようになってきた。しかし、基礎基本が十分身に付いておらず、学習したことの定着が難しい児童も多い。今後は、基礎学力を定着させるための手立てを工夫し、講じていきたい。

・「西が岡スタイル」を定着させることで、授業の流れに見通しをもち、学習に対する気持ちや態度が良好になってきた。しかし、根拠を挙げながら考えを伝えたり、話し合いに進んで参加したりすることは難しく、対話による問題解決の場面で課題が見られる。今後は、児童の発言をつなぎ、考えを広げ深める学習活動を工夫し、主体的に学ぶ態度を養いたい。

・一人一台端末は、情報を得たりドリル学習をしたりするなど、学習ツールの一つとして定着してきた。しかし、タイピングをはじめ、調べたことをまとめた分かりやすく伝えたりするなど、コミュニケーションツールとしての活用については課題が見られる。今後は、ICT支援員の協力を得て、タイピングや、パソコンを使って調べたことをまとめた相手に分かりやすく伝えたりする技能を高めていきたい。

・家庭学習については、どの学年も、自主学習はおろか宿題も期限までに提出できない児童が少なからずいる点に課題が見られる。きちんと提出する児童とそうでない児童とでは、既習事項の定着が異なり、学力に差が出るだけでなく、本校が目指している対話による問題解決学習型の授業の実践も難しくなる。今後は、それぞれの児童に必要な個々の状況に合った家庭学習について工夫したり、懇談会や学年だより等で話題にしたりするなど、学校と家庭が連携して家庭学習の習慣を身に付けさせ、基礎基本の定着を図りたい。